

平成 29 年 8 月 30 日

こりゃ映像！2017ーミニ動画コンテストー

選考報告

農業農村工学会 広報委員会
動画ワーキングチーム長 飯田俊彰

I. 選考経過

(1) 企画

平成 29 年 5 月 24 日 (水) に学界事務局会議室にて動画ワーキングチーム会議が開催され、8 月の学会大会へ向けて、農業農村工学を紹介する動画のコンペを行うこととし、コンペの名称を「こりゃ映像！2017ーミニ動画コンテストー」とすることとなった。動画 WT 長に飯田委員が選出された。下記の事項が決定された。

締切：平成 29 年 7 月 31 日 (月) 17 時

動画の制限時間：60 秒間

平成 29 年度のテーマ：農業用水

応募方法：一般市民が、動画を YouTube へ指定されたタブ (jsidre2017, こりゃ映像, 農業用水) を付けてアップロードする。アップロード手順等の詳細は、別途 Web 上で公開する。

審査方法：広報委員会で審議の上、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を決定する。

賞金：最優秀賞 (1 作品)：2 万円、優秀賞 (2 作品)：各 1 万円

表彰式：平成 29 年 8 月 30 日 (水)

農業農村工学会大会講演会会場 (神奈川県藤沢市 日本大学生物資源学部)

(2) 公募

- ・ 5 月末までに、学会ホームページからのリンクに公募要領をアップした。
- ・ 7 月 12 日頃に、コンペのポータルサイトである COMPE NAVI (スターフィールド株式会社) に登録を依頼した。
- ・ 締切までに 11 点の作品が投稿された (審査委員会宛にコンテスト参加のメール送信の無かった作品は除外した)。

(3) 選考

動画 WT のメール会議にて、下記の事項が決定された。

- ・審査委員として、岡島（三重大）、川島（農林水産省農村振興局農地資源課）、中田（NTC コンサルタンツ、広報委員長）、長山（全土連）、藤川（東京農大）、溝口（東大）、飯田（東大、動画 WT 長）の 7 名が選出された。
- ・応募された 11 点を、審査対象作品とすることになった（審査委員会宛にコンテスト参加のメール送信の無かった作品は除外した）。
- ・審査方法としては、各審査委員が審査対象作品の中から 3 作品を順位を付けて選定し、それぞれ 3 点、2 点、1 点を与えてこれを合計することとなった。
- ・各審査委員は 8 月 15 日までに審査結果を動画 WT 長へ提出し、動画 WT 長が 8 月 18 日までに集計して、各審査委員へ結果を配信することとなった。
- ・配信された審査結果に基づき、審査委員全員によるメール会議で、審査結果が確定された。

Ⅱ. 選考結果と選定理由

（1）最優秀：【農業用水】人と自然の力（山口裕里絵，弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 4 年）（13 点）

農業水利施設から圃場に至るまでの農業用水の一連の状況が、美しい映像でテンポよく捉えられています。地域の農業農村整備事業を題材にして、農業用水の大切さがうまく表現された作品です。アップテンポの音楽やクライマックスの田んぼアートが効果的で、魅力ある映像が作成されています。著作権をクリアしていることを明示している点も評価され、最優秀賞にふさわしい作品であると認められます。

（2）優秀：私の町の農業用水（瀧田燿平，岩手大学農学部農学生命課程 3 年）（11 点）

大学内の身近な農業用水を遡ることで、様々な農業水利施設を紹介しつつ、生態系の保全等の農業用水の多面的機能がうまく紹介されています。ゆったりしたカメラワークの映像と軽快なテンポの音楽とがマッチして、落ち着いた作品に仕上がっており、優秀賞にふさわしい作品と認められます。

（3）優秀：こりゃ映像 2017 金沢工業大学徳永研究室（笹原弘道，金沢工業大学徳永研究室修士 1 年）（8 点）

ドローンを用いた撮影により、通常とは違うアングルから農業用水が供給される仕組みを紹介している点が新鮮です。空中から見た夏の水田の美しい映像が視聴者を引き付けます。最後に農学と工学との連携をアピールする点には独創性があり、優秀賞にふさわしい作品と認められます。